

神大フェスタへの道

人間科学科2年 三星宗雄ゼミナール所属 小林 未菜美

長期休暇が明けて間もない、二〇〇九年九月某日。

「ゼミIで神大フェスタに出てみないか？」

後期第一回目のゼミでの、とある教授のこの提案から、私（達）の怒涛の日々が始まることになる。とは夢にも思っていなかった。何てことではなかった。私の脳裏を横切った疑問は後述する二つである。

Q. 今日は何月何日か。

A. 九月二十九日。語呂合わせだと苦肉になる。

Q. 神大フェスタは何時開催されるのか。

A. 十一月一、二日。語呂合わせは特に思いつかない。

そう、明らかに時間が足りないのである。ゼミで参加することに異義はないが、1ヵ月間で、しかも実験レポート、部活・サークル、アルバイト等がある状況ではどう考えても時間が足りない。さらに、ゼミ生の中には、フェスタ当日は部活やサークルに参加する者、実行委員で学内にいない者がいた。これは来年に持ち越した方が良いのでは？と私が思った時、とある教授はさらに言った。

「もうゼミで参加するって言うてあるから。」

：どうやら保守的な意見は認められないらしい。というか、疑問系で尋ねた意味は何だったのだろうか。

ああ、修羅場確定だな…と、私はひっそり思

った。

そして、フェスタへ向けて、何を出すかを話し合うことになり、最終的にパーソナルカラー・メイクの班、照明の色の効果の班、世界の好まれる色・好まれない色の班に分かれた。因みに、私は世界の好まれる色・好まれない色の班であった。

十月に入り、二回目のゼミのことである。私はフェスタも近付いていることから、当然何かしら班別に話し合いなり何なりやると思っていた。が、その日はフェスタとは関係ない、レジュメ発表で終わってしまったのである。そして、内心焦る私に追い打ちをかけるような発表があった。何と、十月二十七日のフェスタ前、最後のゼミに偉い人々が見学しに来るといのである。これにはゼミ生一同驚愕した。というか、そんなことがあって、益々フェスタ本番ま

で出来る気がしなくなった。



そして、翌週の第三回目のゼミから、漸く班ごとに本格的な活動が始まる。私の班は、千々岩英彰さんの『世界の色彩感情事典』という本から世界二十カ国の好まれる色ベスト5の一覧表を元にして纏めることになった。また、発表の形態は大きな模造紙に世界地図を描き、それに対応して一覧表もまた模造紙に纏めること、

色見本を使う等を決めた。また、次回までに各自で調べてくることも決めた。そして、第四回目のゼミは、班ごとに別れ、それぞれの資料集めに重点が置かれた。因みに、私の班は件の『世界の色彩感情事典』を探しに図書館へ行くことになった。また、そこで本を読みつつ、調べてきたことを話し合ったが、好まれる色はあっても好まれない色は出て来ないということに



なり、時間もないことから、急遽好まれる色だけで纏めることにした。さらに、一人三カ国を担当して、その国で何故、そのような色が好まれるかを調べることにした。

以前言われたように、第五回目のゼミでは、偉い方々が見学をしに来る日であった。班別作業をするのは憚られたため、途中報告ということでパーソナルカラー・メイクの班が発表し、殆どの時間を発表に割いた。そして、少しの時間を使って班で話し合った結果、好まれる色の根拠は、その国の文化や歴史を調べなければならぬが、時間がなかったため、結局本を纏めるだけになってしまった。また、色見本はあっても模造紙がないため、纏める作業はフェスタ前日にある準備日にやることになった。

そして、フェスタ準備日。その日はゼミⅡの先輩方と合同で準備をするようになっていたのだが、驚くべきことに集まったゼミⅠ生は私の班員だけであった。しかし、部活やサークル、実行委員の仕事があるのは以前から分かっていたので、仕方のないことだとも私は思った。そんなこんなで、準備が始まったが、先ず、最初に行ったのが模造紙に貼る国旗作りとその模造紙調達である。繰り返しになるが、その日はフェスタ前日である。明らかに可笑しい。しかも、

色見本と被らないような模造紙を生協で購入したのである。密かに模造紙は前に先生に頼んでいたのでは……？なんて思ったことは内緒である。

取り敢えず、無事に(?)ゲット出来た模造紙に、事前に用意していた白地図を見ながら地図を描いていくチームと一覽表を作るチームの二つに別れて作業することになった。そして、地図作りチームであった私の目にある物が飛び込んできた。そう、先輩方作の、綺麗な印刷された白地図である。唯でさえ準備万端の先輩達に焦っているのに、完璧な白地図を見てしまった。これは私の精神ライフは限りなくゼロに近くなった。というか、月とスッポン並の出来に涙がチヨチヨ切れそうになった(死語)。出来栄えはともかくとして、一人、また一人と部活へと出ていく班員を見送りつつも、漸く完成した地図と一覽表を壁に貼って準備は完了した。

そして、向かえたフェスタ当日。私は午後から出たのだが、緊張しつつも見に来て下さった方に、自分なりに調べてきたことを説明出来たと思う。その点は未熟ながら、フェスタに参加して、それなりに満足したところである。しかし、悔しかったのは、フェスタ当日に地図に色見本を貼り忘れていたのを発見したり、一覽表

に国旗だけ貼ってあり、国名がなく分かりづらいいことを発見したことである。また、急過ぎて、他の班の研究が出席出来なかったのが残念であった。

初めてのフェスタは、低クオリティこの上ないものを出版してしまった。また、時間に追われるのは勘弁願いたい。とにかく、来年はフェスタ一カ月前にやり始めるのではなく、夏の長期休暇から準備を始めよう。そして、来年は出来るだけ全員がゼミの出し物に参加出来るようにしたい。そう心に誓ったフェスタへの日々であった。